

地域支援だより

平成27年10月16日

第57号

きらりNet

秋田県立秋田きらり支援学校
地域支援部

安心・安全な学校生活のために ～緊急時に備えて～

本校は、児童生徒の個別の健康状態を把握し、安心・安全な教育環境を整えるように努めています。その一つとして、万が一の健康上の緊急時に備えた対応策について、本校の取組の一部をご紹介します。

教師間の情報の共有

医療的ケア対象児童生徒や、健康上の配慮の必要な児童生徒について、全職員で通理解を図る機会を設けています。



<個別の緊急時対応カード>の準備

全校の児童生徒について<個別の緊急時対応カード>を作成し、年度初めに保護者の方と確認しています。

カードには主に次のようなことを記載します。

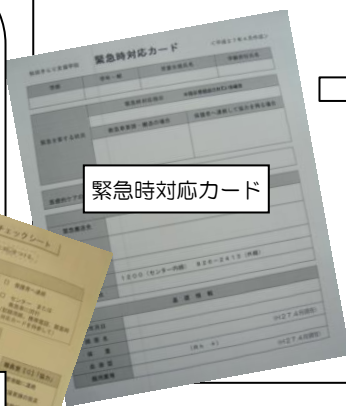
- * 緊急を要する状況やその際の対応（保護者からの聞き取りや主治医からの指示書を基に記入）
- * 連絡体制（緊急搬送先、保護者の連絡先、主治医等）
- * 児童生徒の基礎情報（生年月日、血液型、服用薬等）

教室等の備え

緊急時に慌てず確実に対応するために、チェックシート等を常備しています。

- * 緊急時対応チェックシート
（発見者や養護教諭、協力する職員等の動きの流れ）
- * 救急車要請マニュアル
- * 記録用紙 等

緊急時対応チェックシート



- ・ 全員分をファイリングし、「緊急時に必要な物品」として、職員室や保健室等に保管
- ・ 校外学習などの際に個別のカードを必携
- ・ 医療的ケア対象児童生徒は、そばにいる学級担任が常に携帯

職員の緊急時対応訓練

本校では毎年、全校職員の研修として「緊急時対応訓練」を行っています。児童生徒の緊急時を想定し、職員の対応や校内の連絡体制について確認するための訓練です。今年度は、緊急時に職員全員が対応できることをねらい、一つ一つの対応の意味やポイントを伝えながら訓練を行いました。



児童役や担任役の職員が演示。他の職員は「緊急時対応チェックシート」を見ながら確認。



ストレッチャーの使い方を確認。
このほか、緊急グッズ等の置き場所や緊急放送機器の確認も行った。

訓練を終えた職員からは、対応の仕方が分かっただけでなく、児童生徒の健康状態を改めて見つめなおす機会になったという声が聞かれました。

万が一のことは起こってほしくないことですが、安心・安全な学校生活を目指して、今後も備えていきたいと思えます。

センター的機能の取組（前期）

教頭 石川純子

- ・ 県内の肢体不自由特別支援学級設置校訪問（15小学校・5中学校）
 病弱・身体虚弱特別支援学級設置校訪問（8小学校・8中学校）
 小中学校の管理職や特別支援教育コーディネーター、学級担任との情報交換、情報提供。本校のセンター的機能リーフレットや肢体不自由支援ガイドの配付
- ・ 特別支援教育セミナー（4小学校・3中学校）
 授業参観や校内研修会等への参加・情報提供等
- ・ きらり☆地区別研修会（県北・県央・県南3地区）
 肢体不自由特別支援学級担任、特別支援学校教員を対象に、肢体不自由に関する基礎研修（県立医療療育センター 理学療法士の講演）、情報交換。この取組は今年度で3回目ですが、来年度も参加者のニーズに応じた講演や情報交換を継続していきます。
- ・ 学校訪問（要請を受けて）や研修会・相談会への参加
 他校からの要請を受けて学校を訪問しての相談活動や学習等支援教材等の情報提供
 今後も、皆様のニーズを把握しながら、本校のもつ肢体不自由に関するノウハウを提供してまいりますので、どんなことでも御遠慮なくお問い合わせください。

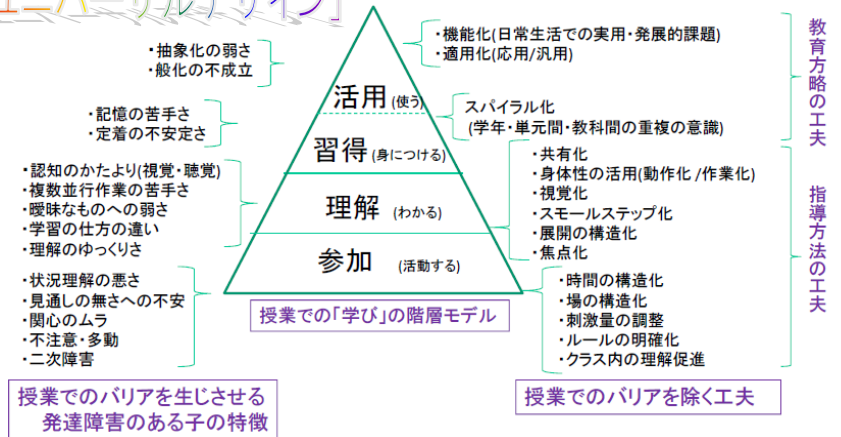


教育専門監のコーナー 「授業のユニバーサルデザイン」

「授業のユニバーサルデザイン」

「大人でも子供でも得手不得手があります。授業のユニバーサルデザインは、すべての児童が認知特性に応じて必要な視覚・聴覚情報を自由に選択しながら、課題や意欲をもって学習できるようにしていくこと。子供が自分に合った学び方ができるように、教師が授業の展開や指示・提示の仕方、学習活動の目標や手段を工夫することです。」

「授業のユニバーサルデザインにより、特別な支援が必要な子どもに焦点を当て、特性に応じた授業を構成し、指導目標を焦点化したり、視覚化により見通しが持てたりするなどの必要に応じた個別の配慮をすることも、「合理的配慮」と考えられます。」



授業のユニバーサルデザイン研究会 <http://hw8.gyao.ne.jp/kokugouniversal/>

参加	クラス内の理解促進	・得意、不得意を含め、互いに理解・促進する機会を設け、働きかける、よい雰囲気づくり。
	ルールの明確化	・授業に参加するためのルールを明確化する。安心して授業に参加できるルールづくり。
	刺激量の調整	・教室内の掲示物や教室外部からの音などが、集中に対する妨げにならないように、学校全体で共通化を図る。
	場の構造化	・教室が整理整頓され、決められた場所に決められた物があるようにする。学校全体で共通化を図る。
	時間の構造化	・時間を、スケジュールやタイマー等で視覚化する。見通すことで気持ちコントロールしやすくなる。
理解	焦点化	・授業でのねらいをより明確化するために、シンプルな構成に焦点をしぼる。
	展開の構造化	・授業の展開を明確にかつ効果的にする。授業全体が論理的な構造になっていることが必要。
	スモールステップ化	・指導目標の達成に向けて、ステップを細かく構成する。状態や特性に応じた提示が必要。
	視覚化	・見えないものを「見える化」していく。「視覚的支援」を行い、イメージ化を図る。
	身体性の活用	・身体を使うことで理解が深まり、記憶として定着しやすくなる。(動作化・作業化)
活用	共有化	・互いの考えを伝え、確認する。他者の意見を聞くことで、自分の意見が深まり、不足部分を補足して理解できる。
	スパイラル化	・教科の反復構造を利用して、繰り返しや系統性を理解する。既習の学習を生かし、習得の深まりを確保する。
	適用化	・習得したことが、状況が変わってもできたり、応用したりできる。
	機能化	・授業で学んだことを、実用的に使用できる。

「授業のユニバーサルデザイン化モデル（2012）」出典「授業のUD研究会HP」

秋田きらり支援学校に相談・見学の希望がありましたら、下記まで御連絡ください。

教頭 石川 純子 地域支援部 佐藤 忠浩

住所：〒010-1407 秋田市上北手百崎字諏訪ノ沢3番127

E-mail：kirarisien@akita-pref.ed.jp

電話：018(889)8573 FAX：018(889)8575

「きらりNet」は本校ホームページから閲覧することができます。

<http://www.kagayaki.akita-pref.ed.jp/kirari/index.html>

